

ヒガシナメクジウオ

岡山県：準絶滅危惧

ナメクジウオ目

Branchiostoma japonicum (Wille)

環境省：該当なし

ナメクジウオ科

選定理由

海砂採取はナメクジウオの生息場所を直接奪い、海底の状態を悪化させる。瀬戸内海においても、海砂採取がナメクジウオ激滅の重要な原因と考えられている。潮間帯（干潟）においては、この100年足らずの間に激滅した。

存続を脅かす要因

海砂採取、水質汚濁、海岸開発（海底の泥質化）

分布状況

房総半島および丹後半島から瀬戸内海を経て九州天草に至る海岸の、潮間帯から深さ70m程度までの砂底表層中にすむ。大陸では中国のチンタオとアモイにも生息。岡山県では備讃瀬戸の下津井沖に生息が知られるが、個体数は少ない。

生息情報

体は左右に扁平で魚型。体長は最大で6cm程度。海底の砂に潜って生活し、プランクトンなどを濾過して食べる。日本のヒガシナメクジウオの生息する砂の中央粒径は、0.31～0.81mmの範囲におさまることが明らかにされている。泥はナメクジウオを窒息死させてしまうため、砂質とともに含泥率も重要な生息条件となる。

無脊椎動物と脊椎動物の中間の動物として学術的にも貴重。

文献番号 30, 103, 104, 117, 166

(森 生枝)



ミドリシャミセンガイ

岡山県：絶滅危惧I類

舌殻目

Lingula anatina Lamarck

環境省：該当なし

シャミセンガイ科

選定理由

生息条件が悪化し、産地・個体数ともに極端な減少傾向にあり、絶滅の危険性が高い。

存続を脅かす要因

海岸開発（干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、海砂採取、産地局限

分布状況

県内では明治時代に平瀬介館によって「備中」産の標本が販売されていた。

県外では青森県以南、中国、フィリピン、オーストラリア、インド・西太平洋に広く分布する。

生息情報

殻長40mm、殻は上下に引き伸ばされた舌形で背腹同形、やや薄く、褐色を帯びた深緑色を呈する。殻の後端から肉茎が下方に伸びる。砂泥干潟下部から潮下帯の海底に垂直に潜って生息する。全国的に減少傾向が著しく、近年確認された産地は陸奥湾、大槌湾、伊豆下田、秋穂湾・山口湾、土佐湾、有明海、笠利湾などに限定され、有明海では現在も漁獲対象とされる程度には生息しているが、その他の産地ではいずれも希となっている。岡山県では上述の「備中」からの記録以後、明確な報告例は知られていない。閉め切り前の児島湾には個体群が存在した可能性があるが、現在本種が生息できそうな良好な干潟環境は県内に見当たらない。ただし潮下帯には生き残っている可能性もあり、今後の調査が必要である。

文献番号 31

(福田 宏)

